

【資料1-1】

中部様式

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
及び地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

東員町地域公共交通会議 (東員町)

平成24年 7月 2日 設置

令和 3年 3月22日 東員町地域公共交通計画策定
令和5年8月改訂
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

■ 東員町の地域特性と公共交通計画

◎人口25,784人 (R2国勢調査)

- ✓ 人口の約5割を北部の住宅団地（笹尾・城山地区）が占める ⇒ **急速な高齢化！**

◎ 東員町内の公共交通

- ✓ 三岐鉄道北勢線・三岐線 (3つの鉄道駅)
- ✓ 民間路線バス (三重交通、八風バス、三岐鉄道)
- ✓ **地域間幹線系統バス (三重交通 桑名阿下喜線)**
- ✓ **町運営のオレンジバス (フィーダー系統)**
- ✓ タクシー

◎ 公共交通に関する計画

平成25年6月策定

「東員町地域公共交通総合連携計画」

- ✓ H28.10 路線名称、ルートダイヤの一部変更

令和3年3月策定

「東員町地域公共交通計画」

- ✓ R5.6 補助制度との連動化に伴う改訂
- ✓ R5.8 東員町地域公共交通利便増進実施計画の策定に伴う改訂

令和5年8月策定

「東員町地域公共交通利便増進実施計画」

- ✓ R5.10 オレンジバスのルートダイヤの再編

現在

《現行の公共交通ネットワーク》



■ 東員町地域公共交通計画の概要

《基本理念》

公共交通が暮らしを支えるまち

町民、特に交通弱者が健康で活動的な生活を送るために、公共交通を利用して移動ができる環境を整備することで公共交通が町民の暮らしを支えるまちを目指す。

《基本方針》

- 1 未来につながる公共交通（維持・活性化）
- 2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）
- 3 身近に感じる公共交通（利便性向上）
- 4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）

《計画期間》

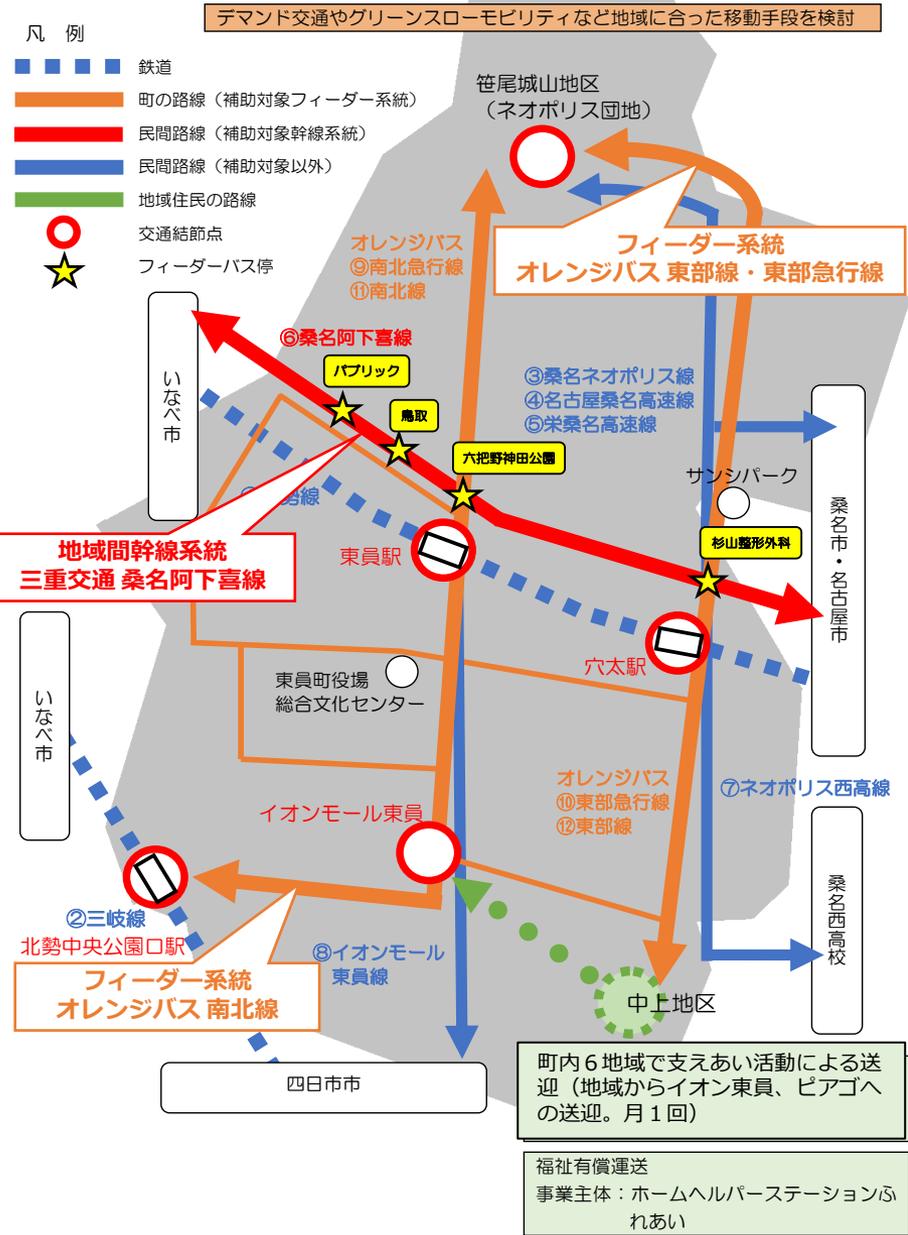
令和3年度～令和7年度（5年間）

《公共交通ネットワークの形成方針》

東西方向は民間路線、南北方向はオレンジバスで機能分担

- ✓ 隣接する桑名市などへの広域移動（東西方向）
⇒ 鉄道(北勢線・三岐線)、路線バス(桑名阿下喜線)により、民間事業者が対応
- ✓ 上記に接続する端末移動及び町内移動（南北方向）
⇒ オレンジバスにより、行政が対応

《公共交通ネットワーク図》



3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標 評価指標 目標値		達成状況					昨年度比	考察
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	4年目 R6年度		
1 未来につながる公共交通（維持・活性化）								
鉄道の維持・活性化	北勢線利用者数を基準値以上に増加	2,551,724人 (R元年度)	2,006,168人 (R2年度)	1,923,377人 (R3年度)	2,084,178人 (R4年度)	2,150,364人 (R5年度)	↑	目標未達成だが昨年度より増加。通勤定期減、通学定期・定期外は増加。通勤利用が課題。
バスの維持・活性化	桑名阿下喜線の輸送量を基準値以上に増加	38.0人/日	35.3人/日	38.0人/日	40.8人/日	46.2人/日	↑	桑名阿下喜線、イオンモール東員線は基準値以上となり目標達成。移動規制緩和による効果の大きいものと推察。
	イオンモール東員線の輸送量を基準値以上に増加	31.3人/日	48.8人/日	47.2人/日	45.1人/日	42.9人/日	↓	
持続可能な仕組みの構築	オレンジバス収支率を15%以上とする	13.7% (R元年度)	9.9% (R2年度)	14.3% (R3年度)	14.6% (R4年度)	15.1% (R5年度)	↑	目標達成。運賃改定により大幅に改善。
	オレンジバスの運賃収入額が増加	8,516千円 (R元年度)	7,247千円 (R2年度)	11,107千円 (R3年度)	11,330千円 (R4年度)	11,784千円 (R5年度)	↑	運賃改定により目標達成。(基準値の1.38倍) 昨年度より増加。 ※R5.6にKPIの見直し

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標 評価指標 目標値		達成状況					昨年度比	考察
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度	4年目 R6年度		
2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）								
交通結節点の 利便性向上	東員駅の乗車 人員を基準値 以上に増加	184,604人 (R元年度)	139,089人 (R2年度)	140,466人 (R3年度)	155,584人 (R4年度)	168,338人 (R5年度)	↑	目標未達成だが、 北勢線は通学定期、定期 外利用者の増加等により 昨年度より増加。サッ カー観戦者への周知、各 種イベント開催などによ る効果と推察。三岐線は オレンジバスのダイヤ接 続が十分でないことが一 因と推察。
	穴太駅の乗車 人員を基準値 以上に増加	126,968人 (R元年度)	102,401人 (R2年度)	101,708人 (R3年度)	107,602人 (R4年度)	113,562人 (R5年度)	↑	
	北勢中央公園口 駅（三岐線）の 乗車人員を基準 値以上に増加	104,337人 (R元年度)	81,225人 (R2年度)	80,616人 (R3年度)	85,764人 (R4年度)	80,907人 (R5年度)	↓	
3 身近に感じる公共交通（利便性向上）								
オレンジバス 再編	乗車人員を 基準値以上	83,844人	80,092人	74,317人	76,715人	75,705人	↓	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月の再編で 東部地区からイオンモ ール東員へ直通するよ うにしたため、東部線の利用が増加（東部急行線は 便数減による減少）。北 部団地からイオンモ ールまでの利用が南北線から 東部線に一部移行したた め南北線が減少。
【路線別利用者数の推移】						単位：人		
年間利用者数	南北急行線	東部急行線	南北線	東部線	総合計			
令和6年度実績	13,248	1,498	48,699	12,260	75,705			
令和5年度実績	12,577	3,080	52,568	8,490	76,715			
令和4年度実績	11,444	2,103	51,620	9,150	74,317			
増減（R6/R5）	1.05	0.49	0.93	1.44	0.99			
4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）								
外出 支援	おでかけ元 気 パス 18,000人/年	0人	16,656人 (R3年度)	17,496人 (R4年度)	20,165人 (令和5年度)	-	↑	広報、PRに努めたため、 目標値達成。

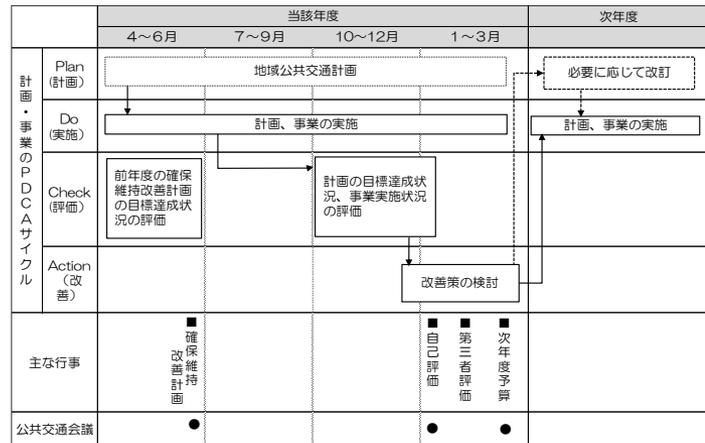
計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道（北勢線）及び鉄道駅（東員駅、穴太駅）の利用者数は昨年度より増加し、回復基調。 ・ 三重交通桑名阿下喜線の利用者数は昨年度より増加し目標達成。 ・ オレンジバスの利用者総数は昨年度よりやや減少。ただし、東部線は増加。運賃収入は増加していることから、利用者数減はイオンモールへの直通運行に変更し、乗り継ぎが不要になったためと推察。収入増は様々な機会での公共交通のPRや、おでかけ元気パスの配布等の利用促進施策による効果と推察。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道や幹線バスなどの広域にまたがる公共交通については、引き続き交通圏内の自治体（いなべ市、桑名市）や県との協働による利用促進施策に取り組む。 ・ 令和5年10月に実施したオレンジバスのルート・ダイヤの再編について、効果検証及び改善策の検討を継続する ・ 公共交通ワークショップの実施やイベントへの参加等により利用者の声を聞き取るとともに、公共交通の啓発を行い利用促進につなげる ・ 利用者の少ない地域には新たな移動手段を導入するなど、各地域の特性に合った移動手段や運行形態を検討する。キャッシュレス決済の導入等の利便増進策について検討する。 <p>⇒以上により目標年度（令和7年度）には 目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジバスの収支率は目標達成したが、利用者数は目標未達成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運賃改定や令和5年の再編が寄与し収支率が向上。 ・ 「おでかけ元気パス事業」「未就学児の運賃無料」などの施策を継続するとともに、公共交通計画及び利便増進実施計画に基づく利用者の利便性向上の取組により利用者増に取り組む。 <p>⇒以上により目標達成の状況を継続する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ オレンジバスの運賃収入額は目標達成（目標値の約1.38倍）したが、オレンジバス利用者数は目標未達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる利用者減を招かないよう、公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、利用者の利便性を向上させる取組みを実施。 <p>⇒以上により目標達成の状況を継続する。</p>

年度	二次評価結果 (期待する取組)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	1 策定した利便増進実施計画の取組を着実に実施し、定期的な効果測定の実施を期待。	・オレンジバスの再編に伴う効果を把握、分析。	・毎年、効果測定を実施し、必要な改善を行うとともに、キャッシュレス決済などの取組を推進。
	2 鉄道や地域間幹線バスとの乗り継ぎによる公共交通ネットワークとしての機能を確保維持するため、引き続き、利用者の声や利用状況を確認し、近隣自治体や交通事業者との連携・協働の下、更なる周知や利用促進などに努められることを期待します。	・様々なイベントでの公共交通ブース出展（アンケートの実施など）、住民とのワークショップなどの利用促進活動を実施。	・今後も、イベント時などにおいて公共交通利用をPR。 ・イベント時のアンケート実施、自治会での意見把握などにより、利用者の意見を把握し、改善につなげる。
前々回	1 収支率は向上しているものの、利用者数は減少している。収支率の改善だけを求めると、利便性が低下し、更に利用者数が減る懸念もあることから、収支率向上と利用者数の確保は両輪で取り組まれることを強く期待。	・利用者数を確保する取組として、ルート再編（町の中心部、イオンモール東員への利便性向上）、おでかけ元気バスの配布等の利用促進施策を実施。オレンジバス利用増につながった。	・公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、利用者の利便性を向上させる取組みを実施。
	2 計画の各事業の実施時期が「令和〇年以降」といった書きぶりが多いので、次回の見直しのタイミングでは実施期間を明確にすることを強く期待。	・令和5年6月の東員町地域公共交通計画の改訂において、重点的に実施する期間、継続的に実施する期間など、実施期間を明確化。	・地域公共交通計画の改訂時には、実施時期の明確化に配慮。
	3 オレンジバスのルートやダイヤを見直すことにより利用者数の増加、収支率のさらなる改善、車両更新のための財政負担の軽減を期待。	・令和5年10月にオレンジバスのルートダイヤを再編。 ・オレンジバスと北勢線との接続性の向上を重視したルートダイヤへ再編を実施し乗継の利便性が向上。東員駅とイオンモール東員間は、オレンジバスと三岐鉄道 イオンモール東員線が毎時1本目の電車で接続するよう調整。	・再編の効果や再編後の利用実態を把握、分析し、ルートダイヤの改善に取り組む。また利用者の少ない地域には新たな移動手段を導入をするなど、各地域の特性に合った移動手段や運行形態を検討する。
	4 北勢線の利用減少対策として、オレンジバスと北勢線の連携を強化するためのダイヤやルートの設定をするなどの視点も必要であり、今後の取組に強く期待。		

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

6.計画・評価の推進体制

【年間単位の評価スケジュール】



【協議会等の開催状況】

	開催日	主な議題
令和5年度第4回 東員町地域公共交通会議	令和6年 1月11日	地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について
令和5年度第5回 東員町地域公共交通会議（書面）		予算（案）について
令和5年度第2回～5回 東員町生活交通を考える会	令和5年10月15日 ～令和6年3月24日	イベントへの公共交通ブース出展、公共交通ワークショップなど
令和6年度第1回 東員町生活交通を考える会	令和6年 6月10日	今年度取り組む事業について（ヴィアティン三重ホームゲームのイベント・TOINマルシェ・わくわくフェスタ・ワークショップ）
令和6年度第1回 東員町地域公共交通会議	令和6年 6月19日	決算、事業実施状況と目標達成状況の評価、確保維持改善計画（フィーダー系統）
令和6年度第2回 東員町生活交通を考える会	令和6年 9月21日	TOINマルシェへの出展 オレンジバス、北勢線等、公共交通の利用促進活動
令和6年度第3回 東員町生活交通を考える会	令和6年10月 6日	とういんわくわくフェスタ2024への出展 オレンジバス、北勢線等、公共交通の利用促進活動
令和6年度第2回 東員町地域公共交通会議	令和7年 1月16日	地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について